



きりんぐみだより No.8



令和3年9月30日
きりん組担任 大川 綾子

2学期が始まり、早くも1ヶ月が過ぎました。懇談会資料の中でご紹介した通り、9月は「きりんぐみぱーく」を開園しました。また、様々な行事に参加しました。そのときの様子をお伝えします。

「きりんぐみぱーく」では、遊びの中で一人一人が自分なりの目的をもち、力を発揮して実現していく喜びを感じられるように、2～7人の友達と一緒に遊びの場を作り込んでいけるようにしました。そのお客さんを迎える日を伝え、「きりんぐみぱーく」と名付けて遊びを進めていきました。その過程で、自分なりに思ったことを伝えている姿を周りの子に気付かせる声掛けをしました。また、意欲的に取り組んでいることを大切に、片付け時や降園前にお互いの遊びの場の進捗状況を伝え合うことで、互いに意欲を高め合えるようにしました。

1週間かけて準備をし、自分たちが遊んでいる場に学級の友達をお客さんとして招くことにしました。そこで気付いたこと、楽しかったことを伝え合い、より遊びがおもしろくなるヒントをたくさん得ました。

今度は他学級や他学年の友達を招きました。自分たちだけで遊んでいたときとは違い、思うように相手に伝わらなくて遊びの場が壊れてしまいそう、入口じゃないところから入っちゃうから困る、触ってほしくないところまで触られる…など、困ったことや新しい発見がありました。

おばけやしき

おばけやしきでは、1学期に学級全員で作ったお化け屋敷を思い出しながら、積木や懐中電灯を使って遊べる場を作りました。関節が一つ一つ動く骸骨や、一つ目おばけなど前回よりさらにこわくしたいという思いを込めて、様々な仕掛けを作っていました。

「みんなの部屋」(元こあら組保育室)を使ったことで、部屋中を真っ暗にすることができ、自分たちの思い描く世界に近付いたことを喜んでいました。

「もっとこわくできるよ」「きりん組の部屋にあるおばけの絵本を並べておこうよ」「やっぱり自分がおばけになって驚かせたい！」という思いを伝え合うことも盛んに行われていました。また、効果音にギロや木魚、マイクでこわい声を出すなどの演出も大喜びでした。効果音を出すところを屋根付きの部屋のように設定している点も子どもたちの工夫が見られた場面でした。



ゆにこーんかふえ

ゆにこーんかふえは、空き箱で作ったユニコーンを眺めることができ、本物らしいケーキや飲み物、アクセサリがたくさんあるお店にしました。始めは、テーブルセッティングや物を並べてお店が完成した！と喜んでいましたが、人を招くにはもっと準備が必要になります。そこで、受付から着席までの流れがイメージできるように教師がお客さん役になりました。声の掛け方やメニューの聞き取り、提供する人など、友達と役割分担したり、メニュー表を用意したりする必要に気付いていきました。その後、学級の友達や他学年の子が来ると、それぞれ自分の役割を果たそうと意識して動いていました。

メニューを聞き取ってから調理をする動きを加えたり、カフェで食事をしたあとには「指輪キャンペーン」というくじ引きをしてでた数字の指輪を借りられるという子どもたちオリジナルの設定があったりして、とてもかわいらしかったです。しかし、このキャンペーンを巡っては、お客さん全員分の指輪があるわけではなく、店員さんたちが自分のしている指輪を貸し出してくれるシステムだったため、お客さんが増えてくると「返してと言っているのに指輪が返ってこない！！」というハプニングに困惑していました。「いつ、どこで返したらいいのかわからないよ」と周りの子が声を掛けると、「そっか！」と自分たちの思いだけでうまく伝わらないことに気付いたようでした。



えいがかん ～あきのおはなし～

えいがかん～あきのおはなし～では、大きなスクリーンの裏に隠れることも重要なポイントだったようで、机や段ボールなど、様々なものを置いて囲いを作っていました。これにかなりの時間を要していました。

「どんなお話ができた?」「どこでお客さん見られるのかしら?」と声を掛けると、はっと気が付き、客席を幼児椅子で作り始めました。このとき、脚数は16脚!という数字に決めたようでしたが、友達が観に来ると「あれ?足りないかも!」「カフェの椅子をちょっと貸して」と状況に気が付いて、自分たちで場を作り直していました。お話作りは、「秋のことを一人ずつ言おうね」との取り決めをしていたようですが、きりん組の友達がいざお客さんで来てくれると、なかなか話が始められず、「まだかな」「始まらないのかな」との声が次々と出てきました。困っているけど、どうしたらいいかわからず、お互いに「〇〇ちゃん、言ってよ」「何言えばいいの?」というやりとりをスクリーンの裏で一生懸命していました。一度、閉館し、「秋の話、どんなことが言いたかった?」「葉っぱがきれいだな」とか、「おいしいものがたくさんあるな」とか?と聞くと、「そうそう!」と具体的な言葉が思い浮かんだようでした。また、直前に作っていた敬老のはがきのステンシルを思い出し、「この紙も見せながら秋ってきれいなものがたくさんあるって言いたい!」と、さらに意見が出てきました。

そして、次の日にはそれぞれ言う内容を決め、しっかりお話を聞いてもらっていました。拍手がわいたり、おもしろかった、絵がきれいななどの感想が聞けたりして、とても満足げな笑顔が見られました。



ふねのりば

ふねのりばは、1学期より自分たちの乗れる乗り物作りとして始まった遊びでした。

段ボールカッターや割ピン、発泡スチロールなど、様々な材料や用具を使いながら試行錯誤して作り進めていきました。途中で、簡単に組み立てて遊ぶことのできるキングブロックの乗り物に興味が移ったり、今日はお休みにする!という日を挟んだりしながらも、続いていました。

2学期になってすぐにこの遊びが再開されました。非常に細かな点までこだわっており、操縦できるハンドル、オール、飲み物置き場、水を汲むための装置、網を付けて釣りができる仕掛けなど、思いがたつぷり詰まったものができあがりました。

いよいよお客さんを呼ぶ日が近付いてくると、看板を作るために何度も何度も書き直したり、船の進むコースをビニールテープで記したりとお客さんを意識した準備も入念におこなっていました。

きりん組だけで遊んでいたときは安定していたのに、年少・年中組さんが乗り込もうとするとガタッと不安定になることに気が付きました。これは段ボールと滑車の台の大きさが異なり、段ボールのほうが少し大きかったこと、遊び混んだことによって段ボールがゆがんだこと、滑車の台の幅が足りていない方を乗り入れるための扉にしていたことから起きたハプニングでした。数名で支えて安全に遊べるようにしていましたが、次の日には段ボールの位置をずらしてその事態が起こらないように修理もかねて変身させていました。

相手に応じて考えること、気が付いたことを伝え合い、再構成できたことが素敵だなと感じました。



にんぎょのしゃんかん

にんぎょのしゃんかんは、「1学期に作ったドレスみたいなもので人魚に変身したい」との思いから始まった遊びでした。

カラービニールの色選び、シール紙で一枚一枚付けていったうろこの模様、何度も試着して完成させたウエスト部分と尾の形作りなど、細かく根気のいる作業もとても楽しそうに、そして、できあがっていくことがうれしい様子で作っていました。

人数が少ない日には、人魚が座れるソファや記念写真が撮れるようにと空き箱でカメラを作って遊びの場を黙々と作り進めていました。また、別の子がこの遊びに気が付き、「一緒に作ってみたい」というと、人魚のスカートの作り方を教える、一緒に手伝っていました。

お客さんが遊びにくることを意識してからは、「背景を海の中のようにしたいから何かないですか?」と教師に尋ねてきて、大きな水色のビニールを見せると、そこに人魚のうろこで使ったシール紙を今度は丸く切って泡に見立てて飾り始めました。さらに製作棚を動かして「試着室」を作るなど、細かな点にも配慮されたお店になっていました。



景品作り

このようにして自分たちが遊んでいた場にお客さんを招いて遊んだ「きりんぐみぱーく」の最後は、遊びに来てくれた友達にプレゼントを渡したい！との思いが膨らみました。そこで、みんなでヨーヨー作りをしました。

水鉄砲のようなものを使って一杯空気と水を入れます。そこに留め具を付けて完成です。できあがるとすぐにじっくり眺めたり遊んだりしていました。

年少・年中組の友達に一つずつ好きな絵柄を選んでもらいましたが、自分がかんがって作ったお気に入りのものを年下の子が選ぶと、少し迷いながらも「はい、どうぞ」「これ、すてきだよ」と渡している子もいました。保育室に戻ってきてから、「本当はお気に入りのものがあつたけど、〇〇ちゃんが選んだからあげたんだ」「次はどれにしようかな？」と言っていました。相手を思いやる気持ちを実感したようでした。

最後は、きりん組パーク大成功を記念して、きりん組のみんなで「ヨーヨー釣り大会」をしました。今度こそ自分のお気に入りのものをゲットしようと意気込んでヨーヨー選びから真剣でした。釣り具は紐でできているものと紙製のものを用意し、難易度は自分で選びました。まずは自分のものを紐のものですくい、一つ手に入ると紙製のもので何度も遊び、破れるまで楽しんでいる子が多かったです。



誰から始めようか？

順番を決めてスタートしたものの、順番がくるのが待ち遠しくて、途中からは、「一緒にやろう！！」と数人で同時に釣り始めていました。



ようちえん90さい おめでとう ケーキ

今年度は、オリンピックパラリンピックイヤーと合わせて、開園90周年の記念の年です。そこで、大きな大きなケーキを作ることになりました。段ボールでできた大きな円柱を保育室に置いておくと、「これはなんだろう？」「切り株？」「ベンチ？」「テーブルにもなりそうだね」など興味を持ち始めました。「もう一つのせたら何になるかな？」と投げかけると、「ケーキ！！」「90歳のお祝いのケーキ？」と答えていました。

「でも、茶色いね」「絵の具で白くする？」など、自分たちで飾り付けたい気持ちが募ってきて、みんなでクリームたっぷりすることにしました。絵の具の案も出ましたが、今回は上質紙に大きな刷毛と水溶き糊を使って色付けをしていきました。みんなでやると大きなケーキもあつという間に真っ白に変身しました。

「今度は果物を作りたいな」「もっと、もこもこのクリームをのせたいよ」「ろうそく90本をみんなで作っちゃおう！」など、友達と話していました。

クリーム（紙）を乾燥させる間、「なかよし広場（ぞう組保育室前の広場）」に置いておくことにしました。すると、年中組さんから、「わあすごい！」「ケーキだ！！」と喜ばれ、「そうだよ、クリーム付けたんだよ」「大きいよね」と紹介している姿はとてうれしそうでした。

年中組さんもケーキに興味をもったところで、「フルーツたっぷりスペシャルケーキを作ろう！！」と題してぱんだ組の友達と2～3人のペアを組んでフルーツ作りを楽しみました。梱包紙を作りたいフルーツの形に丸め、カラービニールで包みました。イチゴ、バナナ、柿、ミカン、マスカット、ブドウ、スイカ、メロン、サクランボなど、ペアの友達と考えたものを作りました。「どれにする？」「一緒に作ってみようか」など、自分なり



に関わり方や言葉掛けを考えて接していました。ときには、「聞いてもらえない」「違うことしちゃう」など、思うように伝わらなかったり戸惑ったりすることもありましたが、教師に助けを求めたり、自分なりに言い方を变えて関わろうとしたりしていました。

できあがったフルーツを紹介し合う中で、マスカットとブドウを房にしているペアもいましたが、一粒ずつにしているところもあり話を聞いてみると、「だってあれだけ大きなケーキだから、一粒ずつ置いた方が全体に飾れるよ」との答えが返ってきました。作っているものの大きさを肌で感じ、フルーツの大きさや数、飾り方を意識して作っていたことがとても伝わってきました。

できあがったケーキは、10月9日(土)の「開園90周年記念 あかしオリンピック」でお披露目予定です。楽しみにしててください!

でた でた つきが♪



お月見の会では、遊戯室に画用紙と竹ひごで作ったススキや紙粘土で作ったお月見団子を飾りました。また、真っ黒なボードを置いておきました(黄色の丸に切った紙を貼り付け、その上に黒い紙を置いておいたものです)。

そして、「つき」の歌をみんなで歌うと、だんだんと黒い紙が動いて満月が出てくるしかけにしました。黒い紙を動かしながら月の満ち欠けについても触れました。

実物投影機を用いて、「うさぎとつき」の紙芝居をみて、月の中にうさぎがいると言われている由来やお月見の意味を知りました。窓の外に向かって「今日の夜、きれいなお月様が見られますように」とお祈りしたり、「ススキをおうちで飾りたい」「お団子食べたいな」と夜を楽しみにしている様子が見られたりしました。

次の日には、「少しだけみれたよ」「きれいだったね」「お団子食べすぎた」など、それぞれご家庭で楽しかったお月見の話をしていました。

おたよりでつなぐ“まごころ”プロジェクト

今回、年長組は「おたよりでつなぐ“まごころ”プロジェクト」に参加しました。これは、中央区社会福祉法人連絡会が主催している取り組みで、区内17法人が連携をして地域社会に貢献するものです。コロナ禍でも取り組める活動として企画されたものでした。

人と人が直接的に交流できない状況において、子どもと高齢者・障害者が「おたより」を通じて、“まごころ”をつなぐ交流を図るプロジェクトです。今回、第一弾として、明石幼稚園は「レインボーハウス明石」さんへ子どもたちのおたよりをお届けしました。ミニコンサートで披露した「にじ」の手話の動画と「私たちは元気に遊んでいます。会える日までどうかお元気でいてください」というメッセージをビデオレターにして送りました。

第2弾として、12月頃に園へお便りをいただけることになっています。楽しみに待っています。今回のプロジェクトをきっかけに、施設同士のつながりを継続していきたいと思っています。